



住宅防火情報

増刊号(H23.2)
消防庁予防課

～住宅用火災警報器を設置しましょう～

★住宅用火災警報器の奏功事例選集★

1. 就寝中の居住者が警報音で目覚めた奏功事例

- 2階寝室で就寝していた男性(30代)が、1階和室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、1階居間で蓄熱式電気暖房器の後方から煙が出ているのを発見した。119番通報を行い、家族3人とともに屋外に避難した。(盛岡地区広域行政事務組合消防本部(岩手県))
- 家族が、ガスコンロの火を消し忘れたまま外出してしまったため、出火したもの。居住者が就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、消火しようとしたが失敗し、屋外に避難し、119番通報を行った。その後、警報音に気付いた隣人が駆けつけ、消火器で消火し、ガスの元栓を締めた。(仙台市消防局(宮城県))
- 居住者が就寝中、居間のストーブより出火したもの。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、火災を発見した。その後、家族と協力して119番通報を行い、消火した。(南陽市消防本部(山形県))
- 居住者が就寝中、たばこの不始末により、併用住宅の事務所部分から出火したもの。階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、119番通報を行い、消火した。焼損は事務所内部のみで済んだ。(南那須地区広域行政事務組合消防本部(栃木県))
- 一人暮らしの女性が、電気コンロでフライパンに火をかけたまま居室で寝てしまったため、フライパンの中身が焦げ、発煙したもの。居室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、コンロのスイッチを切った。火災には至らずに済んだ。(埼玉県中央広域事務組合消防本部(埼玉県))
- 居住者が、ガスコンロに天ぷら油が入った鍋をかけたまま隣室でうたた寝をしてしまったため、出火したもの。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、濡れたタオルと消火器で消火した。(稲城市消防本部(東京都))
- 居住者が、布団の上でたばこを吸いながら寝てしまったため、出火したもの。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、隣人に状況を知らせ、協力して消火し、119番通報を行った。(横浜市消防局(神奈川県))
- 男性(50代)が、ベッド脇の床面上に火のついた蚊取り線香を置いて就寝中、寝返りをうった際に布団が落下、蚊取り線香に接触したため、出火したもの。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、布団を台所の流しに持って行き、水道水で消火した。(横須賀市消防局(神奈川県))
- 居住者が就寝中、電気マッサージ器から発煙したもの。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、プラグを抜いた。マッサージ器の焼損で済んだ。(七尾鹿島広域圏事務組合消防本部(石川県))

- 1階寝室で就寝していた女性が、階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、台所から炎と白煙が出ているのを発見した。洗面器の水で消火した。(小松市消防本部(石川県))
- 居住者が就寝中、電気ストーブに布団が接触したため、発煙した。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、布団をベランダへ出し、消火した。(豊橋市消防本部(愛知県))
- 母親が就寝中、子供がオーブントースターに可燃物を入れて加熱したため、出火した。母親が住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、2人の子供を抱えて避難した。避難後、近隣住民に119番通報を依頼した。(海部東部消防組合消防本部(愛知県))
- 寝たばこにより布団に着火した。居住者が、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、消火した。(鈴鹿市消防本部(三重県))
- 居住者が、電気ストーブをつけたままベッドで就寝中、布団がずれ落ちて電気ストーブに接触したため、出火した。寝室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、布団を手でたいて消火した。(大阪市消防局(大阪府))
- 居住者が就寝中、蓄熱式電気暖房器の噴き出し口にバスタオルが落下したため、出火した。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、すぐに3人の子供を避難させ、風呂の浴槽に残ったお湯で消火した。(たつの市消防本部(兵庫県))
- 居住者が就寝中、父母が居住する離れから出火した。母屋に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、119番通報を行い、父母を無事避難させ、水道水をバケツに汲み、消火した。(出雲市消防本部(島根県))
- 石油ストーブを給油時に、カートリッジタンクの蓋の締め付けが不完全で石油が漏れたため、出火した。居住者の子供が、1階台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、居住者とともに消火し、119番通報を行った。(広島市消防局(広島県))
- 就寝していた居住者が、階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、1階台所から出火しているのを発見した。2階で就寝していた家族を起こして屋外へ避難した。(徳島市消防局(徳島県))
- たばこの消し忘れにより寝室から出火した。就寝していた居住者が、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、消火しようとしたが失敗し、避難した。近隣住民が、警報音に気づき、119番通報を行った。(松山市消防局(愛媛県))
- 居住者が就寝中、電気ストーブに布団が接触したため、出火した。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、水をかけて消火した。(大洲地区広域消防事務組合消防本部(愛媛県))
- 2階寝室で就寝していた居住者が、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、1階のこたつ付近で炎が上がっているのを発見した。消火器で消火した。(久留米広域消防本部(福岡県))
- 居住者が居間で就寝中、冷凍庫の電源コードから出火した。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、避難した。この火災は、翌日の新聞に「住宅用火災警報器で命拾い」の見出しで大きく掲載された。(対馬市消防本部(長崎県))
- 居住者が就寝中、テレビの電源プラグのコンセント差込口から出火した。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、消火器で消火した。(鹿児島市消防局(鹿児島県))

2. 出火場所以外の場所にいた居住者が警報音に気付いた奏功事例

- 孫が、「台所から「火事です。火事です。」という音が聞こえる。」と祖母に伝え、祖母が台所に行くくと魚焼きグリルの排気口から炎が出ているのを発見した。そばに置いてあったエアソール式簡易消火具で消火し、119番通報を行った。(三沢市消防本部(青森県))
- 居住者が、薪ストーブを使用したまま、買い物に出かけ、約1時間後に帰宅した。駐車場で住宅用火災警報器の警報音に気づき、急いで戻ったところ、薪ストーブの前に置いていた薪に火が燃え移り、部屋が黒い煙で充満しているのを発見した。窓を開け、近隣住民と協力して消火器で消火した。小火で済んだが、あと数秒気づくのが遅れたら全焼していた。(山辺町(山形県))
- ストーブの上に干していた洗濯物が落下したため、出火したもの。1階居間でテレビを見ていた居住者が、階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、119番通報を行った。(郡山地方広域消防組合消防本部(福島県))
- 女性(50代)が、朝食用に魚を焼くため、ガスこんろの魚焼きグリルに火をかけたことを忘れて出勤してしまったため、出火したもの。女性の家族が、台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、消火した。(渋川広域消防本部(群馬県))
- 漏電によって2階部分の壁から出火し、天井に燃え広がったもの。居住者が1階台所で食事中、2階寝室に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、消火器で消火し、119番通報を行った。(富山市消防局(富山県))
- ガスこんろで鍋に火をかけたまま、その場を離れてしまったため、出火したもの。居住者が、住宅用火災警報器の警報音で気づき、119番通報を行い、消火した。(勝山市消防本部(福井県))
- たばこの不始末により布団を焦がしたもの。居住者が、自宅に隣接する工場で仕事、自宅に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、2階から煙が出ているのを発見し、119番通報を行った。(松本広域消防局(長野県))
- 居住者が、天ぷら鍋に火をかけたまま忘れてしまい、外出してしまったため、出火したもの。居間でテレビを見ていた小学生の子供が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、台所が燃えているのを発見した。避難するとともに1階に居住する友達の親に知らせ、119番通報を行った。(浜松市消防局(静岡県))
- 加湿空気清浄機の過熱により寝室から出火したもの。居住者と友人2人が、寝室から離れたリビングにいたところ、住宅用火災警報器の警報音に気づき、寝室の空気清浄機から発煙し、そばのゴミ箱が焦げているのを発見した。すぐに空気清浄機を家の外に出し、水をかけて消火した。(伊賀市消防本部(三重県))
- くわえたばこをしながら寝室へ洗濯物を取り込んでいる最中、火種が落ち、洗濯物を入れた押入れから出火したもの。隣室にいた居住者が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、消火器で消火した。(西尾市消防本部(愛知県))
- 母親が、ガスこんろで煮物中、玄関先で米の袋詰めを行おうと、その場を離れてしまったため、出火したもの。息子が、台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、ガスこんろの火を止めた。火災には至らずに済んだ。(大津市消防局(滋賀県))
- 扇風機の経年劣化による絶縁不良で発熱したため、出火したもの。自宅1階にいた居住者が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、2階仏間の襖から炎が上がっているのを発見した。ベランダ

- に置いていた植木の水やり用ペットボトルの水で消火した。(京都中部広域消防組合消防本部(京都府))
- 居住者が、昼食の準備で天ぷらを揚げている最中に来客があり、こんろに火をかけたまま、その場を離れてしまったため、出火したもの。家族が住宅用火災警報器の警報音で気づき、座布団で消火した。換気扇等の焼損で済んだ。(葛城市消防本部(奈良県))
- 居住者が、パソコンを使用中、別室に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、こたつの上の灰皿が割れ、こたつ布団が燃えているのを発見した。水バケツで消火した。(田辺市消防本部(和歌山県))
- たばこの不始末により出火したもの。居住者が、隣室に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、119番通報を行い、別の居住者と協力して消火した。(隠岐広域連合消防本部(島根県))
- 居住者が、台所で電子レンジを使用中、その場から離れて他の事をしていたところ、住宅用火災警報器の警報音に気づき、電子レンジから煙が上っているのを発見した。電子レンジのスイッチを切った。(室戸市消防本部(高知県))
- 男性(40代)が、早朝、寝室で煙草を吸った後、灰皿で消したと思い込み、職場へ出勤して、出火したもの。母が屋外で洗濯物を干し、室内へ戻ったところ、階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、2階寝室へ向かうと、室内に煙が充満し、ベッドの上が燃え広がっているのを発見した。居室の窓を開放し、燃えている布団一式を屋外へ投げ出し、バケツの水で消火した。(有田町消防本部(佐賀県))
- 2階寝室で喫煙したたばこの不始末により出火したもの。1階にいた居住者の母親が、階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、2階へ上がって火災を発見した。その後、近所の親類宅に119番通報を依頼し、身体の不自由な夫の避難の手助けを求め、二人共怪我等もなく無事であった(佐世保市消防局(長崎県))
- 女性(30代)が、ガスこんろでフライパンに火をかけたままその場を離れてしまったため、出火したもの。家族と話しこんでいると、台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、台所の窓からフライパンを投げ捨て、消火器で消火した。(熊本市消防局(熊本県))
- 夕食を作るため中華鍋に油を入れガスこんろに火をかけたまま、その場を離れてしまったため、出火したもの。居住者が住宅用火災警報器の警報音に気づき、敷布を水道水で濡らして被せ消火した。(都城市消防局(宮崎県))

3. 高齢者が助かった奏功事例

- 妻(80代)が、ガスこんろで鍋に火をかけたまま寝てしまったため、空焚きとなり、発煙したものの。夫が、寝室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、ガスこんろの火を消し、水道水により鍋を冷却、窓と玄関の扉を開け、排煙した。近隣住民が、煙に気づき、119番通報を行った。(南空知消防組合消防本部(北海道))
- 女性(90代)が、レンジで餅を温めていたところ、時間調整を間違ってしまったため、餅が焦げ、煙が充満したもの。台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、向かいの住宅に駆け込み、119番通報を依頼した。(北部上北広域事務組合消防本部(青森県))

- 一人暮らしの女性（70代）が、天ぷら鍋で揚げ物をしていて火を消し忘れてしまったため、出火したもの。女性が、居間でテレビを見ていたところ、住宅用火災警報器の警報音に気づき、座布団を天ぷら鍋に被せて消火した。（米沢市消防本部（山形県））
- 身体の不自由な女性（80代）が、就寝中、隣の部屋に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、別の部屋で就寝していた娘に火事であることを知らせ、娘の介助により避難した。（相馬地方広域消防本部（福島県））
- 夫（70代）と重度障がい者の妻が、2階寝室で就寝中、1階リビングから出火したもの。夫が階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、妻をベランダに避難させた後、水道水で消火した。警報音に気付いた近隣住民が、119番通報を行った。（所沢市消防本部（埼玉県））
- 女性（80代）が、ガスコンロでお粥を温めていたまま外出してしまったため、出火したもの。女性が帰宅したところ、住宅用火災警報器の警報音に気づき、すぐに台所へ行きガスコンロの火を消した。（流山市消防本部（千葉県））
- 高齢者夫婦が住む住宅から出火したもの。隣人が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、居住者に知らせ、119番通報を行った。2階建て住宅が全焼した火災で、住宅用火災警報器がなければ、発見が遅れ人的被害も考えられた。（二宮町消防本部（神奈川県））
- 女性（70代）が、石油ストーブのカートリッジタンクに給油後、ネジ式キャップをよく締めずに収納してしまったため、灯油が溢れて出火したもの。家族が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、消火器で消火した。（三条市消防本部（新潟県））
- 一人暮らしの女性（80代）が、味噌汁を温めようとコンロで鍋に火をかけたまま、その場を離れてしまったため、鍋が空焚きとなり、出火したもの。寝室に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、コンロから鍋を降ろし、水道水で消火した。（南越消防組合消防本部（福井県））
- 高齢者の居住者が、ガスコンロの魚焼きグリルの火を消し忘れてしまったため、出火したもの。住宅用火災警報器の警報音に気づき、119番通報を行った。（都留市消防本部（山梨県））
- 一人暮らしの高齢者が、おでんを煮ている最中に、娘から電話があり、電話中に、鍋の中身が焦げ、出火したもの。台所に設置していた住宅用火災警報器が鳴動したが、居住者は難聴であったため、警報音に気付かず、電話相手の娘が警報音に気づき、119番通報を行った。（南信州広域連合飯田広域消防本部（長野県））
- 女性（90代）が、寝室でたばこを吸ったまま寝てしまったため、布団から出火したもの。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、水バケツで消火した。（春日井市消防本部（愛知県））
- 一人暮らしの高齢者が、コンロで鍋に火をかけたままトイレに入ってしまったため、鍋が空焚きとなり、煙が充満したもの。住宅用火災警報器の警報音に気づき、コンロの火を止め、119番通報を行った。（熊取町消防本部（大阪府））
- 男性（70代）が、居間でテレビを見ていたところ、住宅用火災警報器の警報音に気づき、魚焼きグリルから火が出ているのを発見した。スイッチを切り、119番通報を行った。（三木市消防本部（兵庫県））
- 「家の中で何か音と声がしている。」と母親から息子に電話があり、家族が見に行くと、台所で煮物をしていた鍋が空焚きとなり、煙が充満しているのを発見した。高齢者である母親のために家族が住宅用火災警報器を設置していたため、大事に至らずに済んだ。（串本町消防本部（和歌山県））

- 高齢者世帯のみが居住する住宅において、夫のたばこの不始末により、出火したものの。就寝していた妻（80代）が、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、近所に助けを求めた。その後、近隣住民と協力し、消火器と水道ホースで消火した。（玉野市消防本部（岡山県））
- 一人暮らしの高齢者の男性が、こたつに入ってたばこを吸いながら、寝てしまったため、出火したものの。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、消火した。こたつ布団を焦がしてしまった程度で済んだ。（三観広域行政組合消防本部（香川県））
- 仏壇のローソクから燃え移り、出火したものの。居間にいた居住者（70代）が、台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、バケツで消火した。（佐伯市消防本部（大分県））
- 仏壇のローソクが転倒して出火したものの。居眠りをしていた高齢者の女性が、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、避難した。（霧島市消防局（鹿児島県））
- 女性（70代）が、鍋に火をかけ2m程離れた場所で家事をしていたところ、住宅用火災警報器の警報音に気づき、振り返って見ると、台所が煙で充満していた。同居家族も警報音に気づき、協力してこんろの火を消し、窓を開け、排煙した。（石垣市消防本部（沖縄県））

4. 隣人、通行人等が警報音に気付いた奏功事例

- 台所の電子レンジ付近から出火したものの。隣人が火元の住宅を訪問したところ、火元の住宅は留守で、住宅内で「ピーピー」という音と共に「ボン」という音が聞こえた。プラスチックが焼けるような匂いがしたため、施錠されていない窓を開けたところ、煙が上がっているのを発見した。119番通報を行った。（一関市消防本部（岩手県））
- 油が入ったフライパンの火をかけたままにし、発煙したものの。アパート住民から大家へ「隣の部屋から警報器のような音が聞こえる。」と連絡があり、大家がマスターキーで鍵を開け、部屋に入ったところ、煙が充満しており、部屋の中で男性が倒れているのを発見した。大家がガスこんろの火を消した。火災には至らなかった。（石巻地区広域行政事務組合消防本部（宮城県））
- 一人暮らしの居住者が、寝室で就寝中、香取線香を専用容器で蓋をしない状態で使用していて、無意識のうちに容器をひっくり返してしまったため、出火したものの。居住者は、当時飲酒していたため、住宅用火災警報器の警報音に気付かず、隣人が、異臭で外に出たところ、警報音に気づき、水バケツで消火した。（大曲仙北広域市町村圏組合消防本部（秋田県））
- 共同住宅において一人暮らしの男性が、仕事帰りに飲酒をして帰宅し、お茶を飲もうとこんろでやかんに火をかけたまま寝てしまったもの。男性は、寝室に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気付かず、隣人が警報音に気づき、119番通報を行った。やかんの持ち手を焦がすだけで済んだ（ひたちなか市消防本部（茨城県））
- 共同住宅においてカップラーメンの空容器にたばこを捨て、消火したか確認せずに、出勤してしまっただけのため、出火したものの。上階の住民が住宅用火災警報器の警報音に気づき、119番通報を行った。人的被害もなく、大事にいたらなかった。（柏市消防局（千葉県））
- 共同住宅において居住者の留守中に台所から出火したものの。近隣住民が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、当該住宅から黒煙を確認したため、建物所有者に119番通報を依頼し、合鍵を使って進入した後、消火器で消火した。（川崎市消防局（神奈川県））
- 共同住宅において近隣住民が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、部屋から煙が出ていること

- を確認したため、119番通報を行った。到着した消防隊が、出火室で持病により意識消失して避難できずにいた居住者を救出した。(見附市消防本部(新潟県))
- 共同住宅において男性(30代)が、ガスこんろで鍋に火をかけたまま寝てしまったため、近隣住民が、台所に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、管理会社に連絡し、管理会社が119番通報を行った。消防隊が、現場到着後、窓ガラスを破壊し屋内へ進入したところ、意識消失していた男性を発見し、無事救出した。(砺波広域圏消防本部(富山県))
- 市営住宅において、仏壇に供えていた線香が絨毯に落下したことに気付かず、居住者が外出して出火したもの。隣人が住宅用火災警報器の警報音に気づき、119番通報し、近隣住民とともに消火した。(岐阜市消防本部(岐阜県))
- 一人暮らしの居住者が、居間でこたつに入って喫煙していたところ、突然意識消失発作を起こしてしまったため、吸っていた煙草が落ち、その火種が絨毯に着火し、拡大したもの。隣人が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、119番通報を行い、水道水で消火した。(湖南広域消防局(滋賀県))
- 高齢者の居住者の寝たばこにより出火したもの。隣人が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、自宅の2階の窓から向かいの家を見ると、寝室の窓越しに炎が上がっているのを発見した。すぐに119番通報を行うとともに、消火した。その後、近隣住民と協力し、居住者を避難させた。(京都市消防局(京都府))
- 台所に掛けていたタオルが蚊取り線香に接触したため、出火したもの。近隣住民が台所に設置した住宅用火災警報器の警報音に気づき、台所の窓から白煙が出ているのを発見した。119番通報を行った。(高砂市消防本部(兵庫県))
- 近隣住民が、出火建物の近くで犬の散歩をしていたところ、住宅用火災警報器の警報音に気づき、音がする住宅へ目を向けると、窓が開いており、そこから黒い煙が外へ出ているのを発見した。自宅に戻り119番通報を行い、その後、出火建物に戻り、玄関を覗くと足が不自由な居住者が台所に立っていたため、介助しながら避難させた。(中和広域消防組合消防本部(奈良県))
- 台所でこんろの火を消し忘れて外出してしまったため、出火したもの。近隣住民が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、消火器で消火した。(鳥取県東部広域行政管理組合消防局(鳥取県))
- 子供(3歳)が、ガスこんろの火を付けて遊んでいたことを知らずに、家族で外出してしまったもの。隣人が、留守宅の住宅用火災警報器の警報音に気づき、外へ出たところ、留守宅の台所から白煙が出ているのを発見した。119番通報を行った。(今治市消防本部(愛媛県))
- 独居老人宅において居住者が、1階台所のガスこんろで鍋に火をかけたまま外出したため、鍋から発煙したもの。隣人が、階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、外に出たところ、2階の小窓から煙が出ていたので、煙で充満した台所に入り、ガスこんろの火を消し、119番通報を行った。(南国市消防本部(高知県))
- 近隣住民が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、119番通報を行ったもの。消防隊が出動したところ、住宅用火災警報器が鳴動していた住宅は玄関が施錠されて留守だった。施錠されていない窓から屋内進入したところ、家中が煙で充満し、台所のガスこんろ上の鍋が焦げていた。こんろの火は、安全装置が作動し消えていた。(行橋市消防本部(福岡県))
- 2階寝室で神棚のローソクが可燃物に接触し、出火したもの。近隣住民が、出火建物から聞こえ

- る住宅用火災警報器の警報音に気づき、出火建物の住民に知らせた。その後、協力して119番通報を行うとともに、水バケツ等で消火した。(杵藤地区広域市町村圏組合消防本部(佐賀県))
- 居住者がガスこんろで鍋に火をかけたまま外出してしまったため、鍋の中が焦げ、発煙したものの。上階の住民が住宅用火災警報器の警報音に気づき、建物のベランダに回ったところ、窓が開いていたため、屋内に入り、ガスの元栓を閉めた。(鳥栖・三養基地区消防事務組合消防本部(佐賀県))
- 一人暮らしの女性(80代)が、台所の電気こんろで煮物をしていたことを忘れ、外出をしてしまったため、出火したものの。当該住宅の近くで農作業をしていた近隣住民が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、2階の窓から白煙が上がっているのを発見した。急いで住宅に駆けつけたところ、居住者が不在だったため、近くの消火器で消火し、119番通報を行った。(日田玖珠広域消防組合消防本部(大分県))
- 女性(70代)が、台所で煮物を温めようとガスこんろで鍋に火をかけたまま忘れて居間で寝てしまったため、鍋が過熱され空焚きとなり、発煙したものの。隣人が、煙の臭いと住宅用火災警報器の警報音に気づき、玄関及びガラス戸を叩き、女性に知らせ、119番通報を行った。その後、女性がガスこんろの火を止め、排煙した。(名護市消防本部(沖縄県))
- 公営住宅において、飲酒して帰宅した居住者が、鍋に火をかけたまま寝てしまったため、鍋から発煙したものの。通行人が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、台所の鍋から煙が出ているのを発見した。窓から屋内に入ってガス栓を締め、寝ていた居住者を起こして屋外に避難させた。(金武地区消防衛生組合消防本部(沖縄県))

5. 放火、火遊び等における奏功事例

- 子供のライターによる火遊びで出火したものの。母親が就寝中、住宅用火災警報器の警報音に気づき、避難しようとしたが、玄関からの避難が困難であったため、ベランダから助けを求めて、近隣住民が119番通報を行った。居住者はベランダからはしご車により救出された。(鹿島地方事務組合消防本部(茨城県))
- 寝室で子供の火遊びにより出火したものの。夫が就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、妻と協力してバケツで水を掛け消火した。(宇都宮市消防本部(栃木県))
- 妻が応接間等に灯油を撒き、マッチで火をつけて放火したものの。夫が2階で就寝中、1階応接間に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、ベランダから屋外に避難した。(甲府地区広域行政事務組合消防本部(山梨県))
- 放火の疑いにより出火したものの。居住者が就寝中、住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、玄関ドアの新聞受けに挟んであった新聞が燃えているのを発見した。風呂の水を掛け消火した。(江南市消防本部(愛知県))
- 子供(3歳)が、リビングにおいてライターで火遊びをしていたため、近くにあった衣類等に着火したものの。隣の洋室に設置していた住宅用火災警報器が鳴動し、子供が騒いだため、奥の部屋で寝ていた母親が気づき、消火器で消火し、消防署に119番通報を行った。(丹羽広域事務組合消防本部(愛知県))
- 深夜、自宅玄関付近を放火されたものの。居住者が1階廊下に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、消火した。(城陽市消防本部(京都府))

- 放火の疑いにより出火したもの。住宅の外で発生した火災による煙が、窓を開けていた台所から屋内へ進入してきて、寝室に設置していた住宅用火災警報器が鳴動した。居住者は住宅用火災警報器の警報音に気づき、初めに火の気がある台所を疑い、確認したが異常はなかった。その後、近隣住民から当該住宅裏で煙と炎を確認したことを知らされたため、家の外に出て、近隣住民と協力し、119番通報を行うとともに、消火器や水道水で消火した。（豊中市消防本部（大阪府））
- 放火の疑いにより出火したもの。居住者2名が、1階居間でテレビを見ている時、何かが燃える臭いと階段及び居間に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、住宅に隣接している敷地内駐車スペースに駐車していた車両（軽ダンプ）の車内から炎と煙が出ているのを発見した。水道水で消火し、通行人が119番通報を行った。（交野市消防本部（大阪府））
- 幼い兄弟が、押入れの中で、ライターを使い、ティッシュを燃やして火遊びをしていたため、出火したもの。別室にいた母親が住宅用火災警報器の警報音に気づき、台所で水道水を洗面器に汲み消火した。延焼拡大に至らず、幼い兄弟も怪我なく済んだ。（倉敷市消防局（岡山県））
- 居住者が自らカーテンに火を点け、出火したもの。2人の通行人が、建物からオレンジ色の光が見えたため、近づいてみると住宅用火災警報器が鳴動していた。発見者の2人が119番通報し、近隣住民と協力して消火器で消火した。（美馬市消防本部（徳島県））
- 子供部屋において子供が、マッチ、ライター等で火遊びをしていたため、周囲の紙類に着火し、延焼したもの。隣人が、ゴミを出すために外に出たところ、住宅用火災警報器の警報音に気づき、2階の窓から白煙が出ているのを発見し、119番通報を行った。当時、家には施錠がしてあり、子供2人だけであった。（筑後市消防本部（福岡県））
- 共同住宅において認知症の夫（80代）が、1階寝室で、マッチでティッシュペーパーに火を点けてしまったため、敷布団等に燃え広がったもの。2階で寝ていた妻（80代）と娘が、階段室に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づき、娘が水バケツで消火し、妻は隣家に助けを求めて、駆けつけた隣人が、水道ホースで消火した。消火後、隣人の妻が消防署に119番通報を行った。（南薩地区消防組合消防本部（鹿児島県））

6. その他（連動型住宅用火災警報器や緊急通報システムによる奏功事例など）

- 居住者が、台所のガスコンロで魚を焼いている最中に、その場を離れてしまったため、発煙したもの。魚焼きグリルから出た大量の煙に連動型住宅用火災警報器が作動して、別の部屋にいた居住者が早期に気付くことができた。火災には至らなかった。（鳥取県西部広域行政管理組合消防局（鳥取県））
- 離れの旧ラーメン屋で火災が発生したもの。居住者が、隣の家の居間に設置していた連動型住宅用火災警報器の警報音に気づき、消火した。（宮崎市消防局（宮崎県））
- 一人暮らしの女性（70代）が、ガスコンロで鍋に火をかけたままその場を離れてしまったため、内容物が焦げ、発煙したもの。台所に設置していた住宅用火災警報器が作動した。この住宅用火災警報器は、ホームセキュリティーサービスに加入していたため、警備会社に通報され、警備会社から消防署に通報された。火災にならずに済んだ。（能代山本広域市町村圏組合消防本部（秋田県））
- 燃料カートリッジタンクのキャップの締め付けが不完全だったため、漏れ出た灯油に石油ストー

ブの火が引火し、燃え広がったもの。居住者が、緊急通報システム（独居老人専用）にて消防へ通報したところ、指令室職員が、住宅用火災警報器の警報音に気づき、消防車両を出動させ、大事には至らなかった。（館林地区消防組合消防本部（群馬県））

○調理のためガスコンロで鍋に火をかけたまま放置したため、発煙したもの。住宅用火災警報器が作動し、連動していた緊急通報システムが自動的に安全センターに送信、安全センターより消防へ通報を行った。（可茂消防事務組合消防本部（岐阜県））

○一人暮らしの男性（80代）宅に設置していた緊急通報システムの住宅用火災警報器が作動し「火災通報」が入ったため、消防隊が現場へ向かったところ、室内に煙が漂っており、ガスコンロで鍋内の味噌汁が炭化した状態を確認した。（郡上市消防本部（岐阜県））

○居住者が、IHコンロで調理中にスイッチを入れたままその場を離れてしまったため、鍋が空焚きとなり、出火したもの。警備会社が設置していた住宅用火災警報器が作動し、警備会社から119番通報があった。警報音に気付いた居住者がIHコンロのスイッチを切った。火災には至らなかった。（海部南部消防組合消防本部（愛知県））

○コンロで鍋を火にかけていることを忘れて外出し、鍋が焦げて発煙したもの。台所に設置していた警備会社連動の住宅用火災警報器が作動し、警備会社から消防に通報があった。（津市消防本部（三重県））

○便所内に設置の壁掛け用扇風機のモーターコイルが短絡したため、出火したもの。一人暮らしの居住者（80代）が、就寝中、寝室に設置していた住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、緊急通報システムにより警備会社に通報し、水道水で消火した。（和歌山市消防局（和歌山県））

～住宅用火災警報器の奏功事例に関する情報をお寄せ下さい～

【連絡・送付先】

総務省消防庁予防課予防係

TEL 03-5253-7523 FAX 03-5253-7533

E-mail yobouka-y@ml.soumu.go.jp

